

東京大学三崎臨海実験所コレクション 相模湾の動物

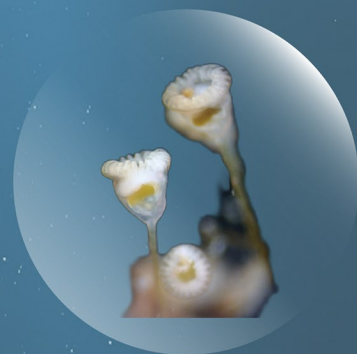
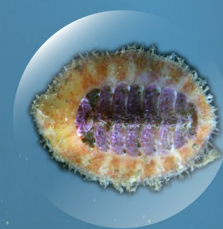
2019年 2020年
12/7(土) ³→ 28(土)

会 場：文京区教育センター2F
大学連携事業室

展示指揮：佐々木猛智・遠藤秀紀

今回のコレクション展では、東京大学三崎臨海実験所から総合研究博物館に移管され、明治31年(1898年)から令和元年の間100年以上にわたり相模湾の生物相を記録した、標本2700点の中から良好で貴重な標本を選び展示する。

通常ではあまり目にする機会のない様々な動物もある。標本は1種ずつ伝統製法による手加工のガラスビンに納められており、独特の雰囲気醸し出している。



講演会

- | | | |
|--|---------|--|
| 2020年 1/25(土)
Saturday, January 25 | 14時~15時 | 三崎臨海実験所で実施している海洋生物調査
幸塚久典(東京大学三崎臨海実験所・技術専門職員) |
| 2020年 2/1(土)
Saturday, February 1 | 14時~15時 | カンブリア爆発の新しい見方
更科 功(東京大学総合研究博物館・研究事業協力者) |
| 2020年 2/15(土)
Saturday, February 15 | 14時~15時 | 海の貝の不思議
佐々木猛智(東京大学総合研究博物館・准教授) |
| 2020年 2/22(土)
Saturday, February 22 | 14時~15時 | 絶滅した海の爬虫類
久保 泰(東京大学総合研究博物館・日本学術振興会特別研究員) |



<https://www.bunkyo-tky.ed.jp/ed-center/>



概要

日本列島は周囲を海に囲まれており、海洋生物の多様性が高く、生物資源に恵まれている。その豊かな生態系は多種多様な生物が共存することで支えられており、それらを構成する種を理解することは、良好な環境を守り維持する上で重要である。東京大学三崎臨海実験所は日本初の臨海実験所として1886年(明治19年)に設立され、1897年(明治30年)に現在地の油壺に移設された。以来、相模湾の生物の重要研究拠点として絶え間なく研究活動を続けてきた。その課程で集められた標本は膨大なものになり、生物の多様性を記録する貴重な資料となっている。今回のコレクション展では臨海実験所から総合研究博物館に移管された標本2700点の中から良好で貴重な標本を選び展示する。これらの標本は、明治31年(1898年)から令和元年の間に集められた標本であり、100年以上にわたって相模湾の生物相を記録している。標本の中には採集が困難な種、標本作製が難しい種など、貴重な標本が含まれている。分類群は多岐にわたり、脊索動物(魚類)、節足動物(エビ、カニ)、軟体動物(貝類、イカ、タコ)、棘皮動物(ヒトテ、ウニ)、環形動物(ゴカイ)、刺胞動物(イソギンチャク、サンゴ)、海綿動物を多く含む他、半索(はんさく)動物、紐形(ひもがた)動物、扁形(へんけい)動物等、通常ではあまり目にする機会のない様々な動物もある。標本は1種ずつ伝統製法による手加工のガラスビンに納められており、独特の雰囲気を感じ出している。

展示物の一部ご紹介



ヤマトシカイウミクワガタ



アカボシコシオリエビ



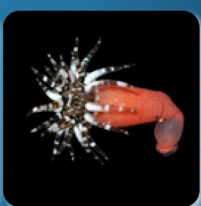
コンボウイソギンチャク



シャミセンガイ属の1種



ナスビイソギンチャク



コンボウイソギンチャク



ハナガサクラゲ



ゴシマムシ



カニノテウミグモ科の1種



コノハエビ科の1種



スズケムシ



サクラガイ



トリオアシ



ビワガニ



会場のご案内

文京区教育センター2階 大学連携事業室

所在地・お問い合わせ

〒113-0034

東京都文京区湯島4丁目7番10号

電話 03-5800-2591

開館日時

月曜日～土曜日(祝日、年末年始を除く)

9時から17時まで

入場無料

交通

- 東京メトロ千代田線
「湯島」駅(1番出口)から徒歩8分
 - 東京メトロ丸の内線
「本郷三丁目」駅(2番出口)から徒歩10分
 - 都営地下鉄大江戸線
「本郷三丁目」駅(5番出口)から徒歩8分
 - 都営バス「湯島四丁目」から徒歩5分
 - 都営バス「池之端一丁目」から徒歩8分
- 自動車での来館はご遠慮ください。

